

中越 初戦敗退



関東第一に敗れ、ベンチに引き上げる中越の選手たち＝13日、甲子園

中越
関東第一

1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	1	2	0	2	1	×		6

六回から右腕の石山愛輝投手が登板し、七回に2失点。八回は遠藤快斗投手が1点を失った。
守備陣は再三の好プレーで投手陣を援護したが、試合巧者の関東第一に中盤から主導権を奪われた。

中越はエースの左腕、雨木天空投手が先発した。初回2死一、三塁のピンチをけん制球で切り抜けたが、四回に暴投で同点にされ、五回は四球や守備の乱れもあり、2点を追加された。

中越はエースの左腕、雨木天空投手が先発した。初回2死一、三塁のピンチをけん制球で切り抜けたが、四回に暴投で同点にされ、五回は四球や守備の乱れもあり、2点を追加された。

中越は初回、先頭打者の堤歩力選手が右翼線への二塁打で出塁。犠打と暴投で1点を先制した。五回は堤、宮崎翔矢両選手の連打で1死二、三塁の好機をつくったが、中軸に一本が出なかった。打線が放った6安打のうち、堤選手は3安打で攻撃を引っ張った。

第107回全国高校野球選手権大会は13日、兵庫県西宮市の甲子園球場で2回戦を行い、本県代表で7年ぶり12回目出場の中越が東京代表の関東第一に1-6で敗れ、31年ぶりの初戦突破はならなかった。

中越は初回、先頭打者の堤歩力選手が右翼線への二塁打で出塁。犠打と暴投で1点を先制した。五回は堤、宮崎翔矢両選手の連打で1死二、三塁の好機をつくったが、中軸に一本が出なかった。打線が放った6安打のうち、堤選手は3安打で攻撃を引っ張った。

関東第一に1-6

甲子園初回の先制実らず